

20180225「洗足」

目標：洗足の出来事を通して、互いに仕え合う大切さに目を向けるようになる。

聖書箇所：ヨハネによる福音書12章12節～36節 時間：10分

暗誦聖句：「しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである」（ヨハネによる福音書13章14節）

道具：ホワイトボード、ペン、たらい、水、タオル

対象者：中3×1 中1×1 小6×1 小5×3 小3×1 小2×1 小1×2 幼稚園児×2

留意点：洗足の実演をするので、あらかじめ子どもたちに根回しが必要である。また、終わった後に良い印象が残るように、配慮を怠らない。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	イエス様の最後の一週間に起きた出来事を、学んできています。 今日のお話は、最後の晩餐の直前にイエス様が為されたことです。		
課題探究	6分	暗唱聖句を読んでみましょう。 教会によっては、この御言の足洗いを実際に受難週の時期に行う教会もあります。 では実際にやってみましょう。 足を洗われてみて、どう言うことを思いましたか。イエス様はお互いに足を洗い合いなさいと言われたのですが、それは、実際に足を洗い合うことよりも、互いに仕え合いなさいと言う意味だとされています。 仕えるとは、例えばどういうことを言うでしょうか。 相手が仕えてくれないときはどうしたら良いのでしょうか。 イエス様が十字架の死に至るまで私達のために仕えて下さった事は、私達の仕えることの模範です。それによって、私達はイエス様の救いを受け取ることが出来たのです。 互いに仕え合うというのは、そう簡単なことではないと思います。でもイエス様が仰られたのは、仕えることが、この世界でとても大切なことだからです。少なくとも、この「互いに仕えあう」ということを、これからもずっと心の片隅に置いてほしいと思います。	読む ・うひゃあ ・いやだ ・やめて下さい ・ ・難しい ・解らない	足だけを洗うことにするには、イエス様とペテロのやりとりを用いる。イエスが、足だけを洗えば良いのだと言われたのである。 あらかじめ根回しをして、誰の足を洗うか決めておく。人数的に可能ならば、全員の足を洗う。 色々自由に挙げさせたい。 「足を洗い合う＝互いに仕え合う」と板書する。 子どもたちに挙げさせたいが、出なければ教師側から実例を二、三挙げる。子どもたちと、親などを考えれば、イメージしやすいだろう。 この応答はまずでないと思う。宿題をしない子供にも親はご飯を作るなどを実例として、まず自分から仕えていくことを促すようにする。 「仕える模範はイエス様の十字架」を板書する。 十字架のおかげで私達は教会につながっている趣旨を、板書する。 今は仕えることが解らなくても、将来解るようになるとの期待を、教師自ら子どもたちに示すことで、余韻を残したい。
まとめ	2分	暗唱聖句		